

一橋論述特訓（後期）

13

【参考12】

1988年 東大

欧米において近代市民社会が形成されるにあたり、17世紀から19世紀初頭にかけて、さまざまな変革が生じたが、それらの変革の様相は地域によってそれぞれ異なっていた。そこで、イギリス、アメリカ、フランス、プロイセン(プロシア)の四つについて、以下の(A)、(B)の設問に、それぞれ10行(編集部注:300字)以内で答えよ。解答の冒頭に(A)、(B)の符号を付しなさい。

〔設問〕

- (A) イギリス革命(ピューリタン革命および名誉革命)とフランス革命に関し、革命を引き起こした原因と、革命がめざした目標とについて両革命を比較し、それぞれの革命の特色を述べよ。さらに、19世紀初頭のプロイセンの改革の特色と思われる点を指摘せよ。
- (B) アメリカ独立革命に関し、ヨーロッパにおける諸変革との比較を念頭において、アメリカの場合の特色と思われる点を述べよ。

解答において、イギリス、アメリカ、フランス、プロイセンを、それぞれ、英、米、仏、普、と表記してよい。

イギリスが国内の事件にとどまったのに対し、フランスがどうであったかがポイント。プロイセンについては上からの近代化という性格を明らかにすること。

(A) 英革命はジェントリを主体とした議会による絶対王権の制限が目標であった。漸進的に成果を積み上げ、議会が勝って立憲政治が確立したが、他国への波及はみられなかった。仏革命は旧制度とよばれる絶対主義の打倒をめざしたが、長い抑圧をはねのけただけに爆発的であった。ブルジョワジーを主体に民衆も加わり、自由・平等や人民主権などの普遍的な革命の原理をかかげて激しく展開したため、周囲の国の反感をかい、国際的な干渉も招いて全ヨーロッパに拡大し、後世へ大きな影響を与えた。一方、後進国の普ではナポレオン支配から自立をめざす国民主義の高まりを背景に上からの近代化を推進しようとした。(281字)

(B)

①米独立革命は英本国の重商主義政策に反発した独立運動であると同時に、植民地に持ち込まれた前近代的な制度を打破しようとする市民革命でもあった点に特色がある。イギリスに対する国際的反感を背景に、フランス・スペイン・オランダの参戦や武装中立同盟の結成など、ヨーロッパ諸国が革命に同情的であったことも1つの特色といえよう。独立宣言にみられるように、人間の自由・平等と専制に対する抵抗という普遍的な思想の実現としての合衆国の成立は、仏革命やラテン=アメリカの独立運動などにも大きな影響を与えた。しかし連邦のあり方、黒人問題など、今後いろいろな問題も残したのである。(278字)

②アメリカ独立革命はイギリス革命に比べて革命の主体が市民である点、さらにその中が多様な階層に分かれている点、国際紛争に発展するなどにより徹底した武力革命であった点等の特徴とする。また独立宣言の中に明記されているようにフランス革命と同様に、ロックの革命権思想の影響を強く受けている点、自然権思想に基づき市民の権利意識が明確にされている点なども特筆される。また他のヨーロッパの諸革命と比べて、本国からの独立で重商主義的圧政から植民地人民を解放し、同時に植民地内部の王党派を打倒した二重の市民革命であった点や連邦制をとった点も特徴である。ただし黒人奴隷・アメリカ先住民の人権は保障されず限界も存在した。

【参考13】

1995年 津田塾大学芸

200年前代表的な市民革命といわれるフランス革命が進行中であった。この革命について以下の設問に答えなさい。

国民議会 統領(執政)政府 国民公会 立法議会 総裁政府 三部会などの諸組織に留意して革命の性格の変化を述べなさい。(300字以内)

1789年、三部会内の対立から第三身分は国民議会を創設し、自由主義貴族や上層市民の指導下、人権宣言や封建的特権の廃止宣言を発し身分制からの解放をめざした。その後成立した立法議会では、中産市民層を基盤とするジロンド派が実権を握り92年8月に王権を停止した。その後国民公会が共和政を施行し革命は急進化した。小農民や都市の無産市民が支持するジャコバン政権は、封建的特権の無償廃止や93年憲法の決議など民主主義の徹底化をはかった。やがて保守化した小農民や商工業者の支持を得て、急進派から政権を再び奪取した穏健共和派は総裁政府をたてた。同政権の弱体による政情不安の中、ナポレオンはクーデタで統領政府を樹立した。

【参考14】

1995年 首都大東京

アメリカ独立革命とフランス革命はいずれも共和政を生み出した。この点を主眼にして二つの革命を比較し、下記の語句をすべて用いて400字以内で論述せよ。

領主制・重商主義・連邦制・公安委員会・人権宣言

アメリカでは本国の重商主義による課税強化が、フランスでは特権身分への課税問題が革命の契機になった。アメリカは独立戦争開始に際して独立宣言を出し、フランスも国民議会で人権宣言を發布して、ともに人民主権の国民国家を理想とした。しかし、領主制が移植されず、イギリスの議会制度の伝統に基づき、植民地議会による自治が機能していたアメリカに対し、フランスでは絶対王政の下で中世以来の身分制団体が存続していた。また、新大陸にあつたアメリカに対し、フランスは西欧の中心に位置した。そのためフランス革命は旧体制側の抵抗と周辺諸国との革命戦争を引き起こし、革命は過激化して恐怖政治にいたつた。統治制度においても、州の権限を尊重する連邦制を採用し、三権分立原則を徹底させたアメリカに対して、フランスは中央集権体制を強化し、共和政の開始にあつては一院制の国民公会が三権を独占した上に、公安委員会に強大な権限が与えられていた。

【参考15】

1992年 東大

1806年の大陸封鎖令の目的と結果を90字以内で記せ。

①英国産業を大陸市場から切り離し、フランス産業に大陸支配させる

(対英戦略であるとともに、フランス資本のための市場確保を目的とする)

イギリスは逆封鎖で報復、密貿易が行われ、大陸諸国は経済的に苦境に立つ

(イギリス経済の被害は少なく、かえって対英貿易に依存する大陸諸国の経済が混乱)

②大陸諸国とイギリスとの通商を禁じ、イギリス経済に打撃を与えることをねらった。しかしこれがイギリスとの貿易にたよる諸国の反発を高めて民族的自覚を生み、ナポレオンの没落を誘った

【参考16】

1998年 千葉大

ナポレオンの大陸支配はヨーロッパ社会に様々な影響を与えた。以下の用語を使用して、ナポレオン支配の影響の特質について論じなさい。

神聖ローマ帝国 大陸封鎖令 シュタイン・ハルデンベルクの改革 スペイン王国
自由主義 国民主義

ナポレオンがライン同盟を組織して神聖ローマ帝国を滅亡に追いやったことは、統一にいたるドイツの再編の契機となった。また、法の下での平等や経済活動の自由を保障したナポレオン法典の施行などで、支配下の各地に自由主義や国民主義のフランス革命の理念が浸透した。自由な国民からなるフランス軍の強大さは、支配層にも改革の必要を認識させ、プロイセンがシュタイン・ハルデンベルクの改革で農奴解放を行うなど上からの近代化の試みも始まり、フランス革命以前の国際体制や絶対王政を支えた身分秩序を動揺させた。一方、大陸経済の支配をはかり、イギリスとの通商を禁じた大陸封鎖令を出して各国の経済を麻痺させるなど、フランスの国益を第一とするナポレオン支配体制は、スペイン王国での半島戦争など各国で反フランスナショナリズムを高揚させ、フィヒテの「ドイツ国民に告ぐ」の講演に代表されるように、国民主義に民族主義の要素を加えることになった。

【参考17】

2003年 筑波大

問(1) ローマ教皇に対するカール大帝とナポレオンの態度の差はどこからきているか。それはまた二人の文化政策にどのようにあらわれているか。

問(2) ナポレオンの「革命的英雄」としての側面と、「侵略者」としての側面をもっともよくあらわしていると思われる事例(政策)を各々ひとつ挙げ、説明を加えなさい。

[03年 筑波大]

問(1) カールはローマに赴き、サン＝ピエトロ寺院で教皇レオ3世から皇帝の冠を授与された。皇帝はローマ教会の聖なる権威に対応する俗界の首長にすぎなかった。文化面でも聖職者への依存は不可避であったが、カールが設立した学校ではラテン語と古典文化が尊重され、カロリング・ルネサンスを生みナポレオンはコンコルダート(宗教協約)を結び、教皇と和解したが、フランスの司教権の独立を主張するガリカニズムの立場を貫いた。

問(2) 「革命的英雄」としては、イタリア遠征の成功などの軍事的功績よりも、民法典(ナポレオン法典)によって近代市民社会の諸原則(私有財の絶対、家族の尊重、国家の世俗性、法の下での平等など)を確立し、大陸諸国の模範となった。「侵略者」としては、イギリスに経済的打撃を与え、フランス産業資本によるヨーロッパ市場の独占を目指して、大陸諸国とイギリス間の通商を禁止するベルリン勅令(大陸封鎖例)を出したが、諸国民の反抗を招いた。

【参考18】

2003年 学習院 文

次の主題について、200字以内で歴史的に論述しなさい。数字は1マスには2字まで、句読点は1マスに1つずつ入れること。 ウィーン会議について

会議はナポレオン戦争後の戦後処理のため1814年からメッテルニヒを議長して開催。フランス革命前の各国の主権と領土を正統と見なす基本原則を掲げたが、戦勝国の間で領土の配分をめぐる利害が対立した。しかし、ナポレオンの復位の報が伝わると1815年6月各国は勢力均衡に基づく領土配分のウィーン議定書を成立させた。この会議の結果保守反動的な19世紀前半のヨーロッパの政治体制が成立した。

【参考19】

1997年 金沢大

19世紀前半のフランスで二度にわたって展開された革命の過程を大ブルジョワジー（銀行家のことをいう）、中小ブルジョワジー、労働者、農民の各階級の動向にふれながら、400字以内で説明しなさい。

制限選挙制のもと、国王シャルル10世の反動的政治が続くなか、1830年の選挙で自由主義派が勝利すると、国王が未召集の議会を解散したため、七月革命が起こった。新国王ルイ＝フィリップは選挙権を拡大したが、有権者は総人口の1%に満たず、政治も有権者となった大ブルジョワジーの利益にもとづいて行われた。七月王政下で産業革命が進むと、力をつけた中小ブルジョワジーと成長した労働者は、選挙権を要求した。48年に選挙法改正を求める改革宴会が弾圧されると、パリ市民による二月革命が起こった。その結果、有産市民を代表する共和主義者に労働者階級を代表する社会主義者ルイ＝ブランを含む、共和政の臨時政府が樹立された。しかし、農民が社会主義政策で土地を失うことをおそれたため、4月選挙で社会主義者は大敗した。その後、国立作業所の廃止に反対して労働者が六月蜂起を起こしたが、鎮圧され、穏和共和主義者の政府が成立した。

【参考20】

93年 京都府立大

フランスにおける二月革命について、それが起こった政治的、経済的背景と、本国フランスおよびドイツ・イタリアに及ぼした影響について400字程度で説明しなさい。

40年代後半、ヨーロッパの凶作・不況のひろがり背景下に農民・労働者・小ブルジョワジーは政治の変革を求めていた。フランスでは中小のブルジョワジーが共和主義の立場から選挙法の改正運動を展開し、政府が弾圧に乗り出すとパリ市民が蜂起し、第二共和政が樹立された。この政府には自由主義者とともに社会主義者のルイ＝ブランなども参加し、男子普通選挙を採用し、労働者のための国立作業所を設立した。この二月革命はヨーロッパ各地の民族運動を発展させ、ウィーン体制を一気に崩壊させた。ドイツでは、ウィーンの三月革命でメッテルニヒが失脚し、ベルリンでも民衆が蜂起してプロイセン王に憲法制定を約束させた。5月にはフランクフルトの国民議会が開かれてドイツ統一と憲法制定の問題が討議された。イタリアでは青年イタリアを組織したマッツィーニがローマ共和国を樹立した。

【参考21】**93年 筑波大**

世界史的に見て1848年はどのような年であったか。イギリス・フランス・アメリカ合衆国および統一前のイタリア・ドイツを例に挙げて400字以内で説明せよ。

1848年はウィーン体制が崩壊し、「諸国民の春」とよばれた年である。すなわちフランスでは二月革命が起こり、七月王政が倒されて、産業資本家と社会主義者による第二共和政が開始されると、諸国民に大きな影響をあたえた。ドイツではオーストリアの二月革命でメッテルニヒが失脚し、これに乗じてハンガリーやベーメンの民族運動も高まった。またイタリアでもサルディニア王国が統一をめざしてオーストリアに宣戦した。さらにプロイセンではベルリン二月革命ののち、ドイツ統一と憲法制定をめざすフランクフルト国民議会が開かれ、イギリスではチャーティスト運動が最後の高揚をみせた。一方アメリカ合衆国は、カリフォルニアを獲得して大陸国家の形成をほぼ完了した年であった。ヨーロッパの諸革命や民族運動は失敗に終わったが、自由主義・国民主義運動の高揚に加えて労働者の台頭もあり、この年は世界史の新しい流れの起点ともなった。